

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02830

研究課題名(和文) 韓国の社会変化と国際結婚家庭の言語使用 - 日本人母の日本語の継承を中心に -

研究課題名(英文) Changes in Korean Society and the Language Use in Korean-Japanese Families - Focusing on the Japanese Language Heritage by Japanese Mothers -

研究代表者

花井 理香 (HANAI, Rika)

関西学院大学・言語コミュニケーション文化研究科・研究科研究員

研究者番号：60745967

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、少数派言語を母語に持つ親の子どもへの言語継承という視点から、国際結婚家庭が増加している韓国に居住する日本人母を対象に、家族変化、社会変化がどのように日本語の継承に影響を与えるのかを探ることを目的とした。研究調査の結果、子どもの成長と共に、家庭での日本語の学習が増加していることが明らかとなった。それには、日本の家族との紐帯、韓国の教育熱からの逃避、韓国社会での多文化家庭への支援の定着などが要因として考えられた。また、日本人コミュニティの存在は、日本語の継承を肯定的に捉えられる共有の場となり、海外でのコミュニティの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際結婚家庭の言語研究で、同一グループを対象に継時的な調査を実施している研究はほとんどなく、10年以上の言語の変遷・変化から、家族変化、社会的支援などが日本語の継承に影響を与えることを明らかにしたことは意義がある。また、コミュニティを対象とした言語継承研究も少なく、海外で同国人のコミュニティの存在が言語継承に影響を及ぼし、言語継承が促進される結果を提示したことは、今後の日本での多言語政策に示唆を与える意義ある研究であったと考える。

研究成果の概要(英文)：From the perspective of preserving the language heritage of social minorities, the purpose of this study was to investigate how family and social changes affect the Japanese language heritage for Japanese mothers living in South Korea, where the number of multicultural families is increasing. The results of the research show that as children grow up, learning Japanese at home increases. The reasons for this were considered to be the connection with Japanese families, the escape from the enthusiasm for education in Korea, and the establishment of support for multicultural families in Korean society. In addition, the presence of the Japanese community became a place for sharing in which the Japanese language heritage was viewed positively, suggesting the importance of the community overseas.

研究分野：人文学、言語学、日本語教育

キーワード：言語継承 国際結婚 多文化家庭 多文化共生 日本語の継承 日本人母

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

日本では1990年の入管法(「出入国管理及び難民認定法」)改正以後、在留外国人数が増加している。また、国際結婚も婚姻全体の約4.1%を占めるほどになり、1980年の約1%に比べると大幅に増加した(厚生労働省, 2013)。現在は、在留外国人に対するさまざまな制度や施策が検討されており、特に、社会で主要言語として使用されている日本語の習得は大きな課題となっている。しかし、日本語を母語に持たない親の母語の継承・保持などについては、国策としてほとんど何も行われておらず、大半が家庭での問題と考えられてきた。そのため、国際結婚家庭での言語使用・言語継承などの研究はまだ十分に進んでいない。しかし、今後の多民族との共存を考えると、等閑視できなくなることは容易に予想できる。このような現代の社会背景と今後の多民族との共存を見据え、国際結婚家庭での少数派言語を母語に持つ親の子どもへの言語選択・継承実態とその継承意識に影響を与える要因を明らかにすることは重要であると考えた。

韓国では約10人に1人が国際結婚という状況から、2008年に「多文化家族支援法」が施行され、国際結婚家庭に対する政策の推進・支援を開始した。「多文化家族支援法」施行以後、日本人母のコミュニティが多数結成されており、母親たちが中心となり日本語を学習する塾なども開設されている。日本語補習授業校や継承語教育機関のない韓国で、日本にルーツを持つ子どもたちの言語継承研究として塾・サークルでの参与観察をする意義は大きい。韓国の言語継承状況を調査していくことは、今後の日本社会での多民族との共存に向けての課題が提示でき、日本の現状に一石を投じる意義ある研究になると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では、少数派言語を母語に持つ親の子どもへの言語継承という視点から、国際結婚家庭が増加し、2008年に「多文化家族支援法」が施行された韓国に居住する日本人母を対象に、日本語の継承に影響を与える要因を探ることを目的としている。現在までの横断的研究によって得られた研究成果をさらに発展させ、縦断的研究として調査していく。2006年から実施している面接調査の継時的調査、政府の支援活動機関や日本人コミュニティなどでの面接調査・参与観察を通して、家族変化、政策などの社会的支援や社会変化がどのように言語選択に影響を与えるのか、また、言語選択によって、家族内の価値観や子育てがどのように変化していくのかということを中心に、日本の在留外国人などの言語に対する政策・支援の今後の課題を提示する。

## 3. 研究の方法

現在、外国人労働者や結婚移民者の増加により多民族化する韓国社会を背景に、外国人政策、結婚移民者、受け入れ社会などに焦点をあて、ミクロ・マクロ的な視点から日本語の継承に影響を与える要因を探る。

2006年から継続して行っている第3回目の韓国在住の日本人母(以下、在韓日本人母)への面接調査を家族・社会変化と家庭内言語使用、母親の日本語継承意識の変化を探ることを中心に引き続き実施した。2015~2016年に実施した在韓日本人母7名(韓国在住4名、日本在住2名、アメリカ在住1名)の母親の継承意識を比較分析し、海外での教育を選択した要因などの調査結果をまとめた。また、2010年から新たに開始した10名の日本人母へ第2回目の面接調査を実施した。

さらに、政府の支援として、政府の支援活動機関への訪問、日本人コミュニティや子どもの日本語学習塾などのサークルで参与観察を行った。日本語学習を行っているコミュニティでのフィールド調査を実施し、政府の支援活動、コミュニティの変遷、子どもへの日本語学習活動の実

態などを調査した。

これらの調査から、政府の政策支援、家族・社会変化などが、どのように家庭の言語、子どもへの言語継承、子育て(教育)へ影響を与えているのかを明らかにすることができると考えた。このミクロ・マクロ的な縦断的研究を遂行することにより、継時的な家族・社会変化がどのように言語使用に影響を及ぼすのかということをより詳細に明らかにすることができ、政策・支援の普及と言語使用への影響についても今後重要なデータとなる意義ある研究になるであろうと考えた。

#### 4. 研究成果

まず、2006年から継時的に実施している在韓日本人母の第3回目の面接調査結果をまとめた。対象者7名はすべて、第1、2回調査時はソウル近郊に居住していたが、第3回目の居住地は、韓国4名、日本2名、英語圏1名となっていた。調査結果からは、父親の支援・理解など、家族の日本語を習得させようという積極的な姿勢が、日本語の継続的な使用を促進させる要因となっていると考えられた。また、韓国での外国語教育熱、日本語の社会での評価の高さから、日本語習得に積極的になる母親が第1回目の調査から見受けられたが、子どもが成長するにつれ、親とのコミュニケーション、将来の選択肢の広がりへの期待などが日本語の継続的な使用に影響を与えていると考えられた。しかし、韓国の過剰な教育熱には抵抗感を抱く母親も多く、教育過剰からの回避が海外での教育を選択した理由の一つに挙げられていた。過剰な教育からの逃避、子どもの勉強以外の可能性を求め、日本への留学・居住を意識した日本語の使用をしている家庭が多くみられた。本調査からは、韓国社会での教育体制が家庭の言語に大きく影響を及ぼすことが明らかとなった。これは、今後の韓国社会の大きな課題であると考えられる。

また、2010~11年から新たに面接調査を実施した10名中、子どもへ日本語を使用していなかった4名の在韓日本人母に第2回目の面接調査を実施した。現在の家庭での言語使用・教育などを調査し、家族・社会変化などが、どのように家庭での言語使用や教育に影響を与えているのかを探った。4名の家庭では、以前とは日本語に対する考え方が変化し、日本の家族との紐帯、日本文化への興味、将来の進路や就職などの目的のために日本語が学習されていた。第1回目の調査では、義父母との同居や父親が日本語を理解できないこと、韓国人として育てたいなどの理由で母親は子どもに韓国語を使用していたが、子どもが成長し、中学生以上になると、子ども自らが日本語を習得したいと考え日本語の学習を開始していた。成長するにつれ、自ら日本文化に興味を持ち学習を始めたものが多かった。これには、日本文化の影響と母親の国という親近感が影響しているのではないかと考える。また、日本語は将来、日本の大学進学のためと語った母親からは、韓国の教育に対する不満が聞かれた。韓国の教育過剰からの逃避として、日本の大学入学を選択肢の一つとして考え始め、日本語の学習を開始したと考えられる。これは、2006年から縦断的に調査している7名の在韓日本人母が、子どもに日本やアメリカでの教育を受けさせているのと類似する。家族・社会変化の背景には、常に韓国の教育問題が関与していると考えられ、韓国の教育熱からの逃避が日本語の学習を肯定的に捉える要因となっていると考えられた。

次に、2007年に立ち上げられた在韓日本人コミュニティの10年間の参与観察の結果をまとめた。2017年のコミュニティの10周年の記念行事、アルバム制作に協力し、母親のフォーカスインタビューと父親3名のインタビューから、コミュニティは海外で生活する母親の生活の活力の場、心の拠り所となり、日本語の使用を肯定的に捉えられる場となっていることが明らかとなった。これは、韓国政府が多文化家族の支援に注力し、社会での理解が定着したことも大きく影響していた。生活のしやすさや、外での日本語使用の抵抗感のなさにつながっていると考えられ

る。今後の多民族社会を考える上で、コミュニティの重要性が示唆された。

延長を申請した、最終年度となる 2019 年度は、言語継承に影響を与えられとされる社会的要因にあたる政府の政策や社会的支援として、2018 年からフィールド調査を続けている移住民のために 2004 年に設立された「移住民放送」の関係者の面接およびフィールド調査から、支援の重要性とその支援を支えるものを探ることとした。調査結果からは、「移住民放送」が、韓国での差別や偏見のない社会をめざし、彼らの力強い声を社会に伝達するという目的は、メディア教育という支援により実施されていた。メディアを通じて、外国人を支援していくということは、彼らの声を母語で発信するのみならず、彼らの活躍できる場を提供し、当事者の韓国生活・適応に大きく影響を及ぼしていると考えられた。支援者たちの活動・信念が 15 年もの間、引き継がれ、移住民たちの活躍できる場を提供し、大きな支援の一つになっていることが明らかとなった。このような支援は、今後、韓国社会を担う人々への大きな原動力となるが、支援には、政府の関与が大きく影響を及ぼす。運営資金の問題なども含め、これからも支援活動を注視していくことを今後の課題としたい。

本研究期間内の調査結果からは、社会での多文化家庭への認識が向上し、政府の支援なども改善され、日本語の使用・継承を肯定的に捉える環境が整いつつあると考えられた。コミュニティや移住民放送などの外国人への支援は、韓国での生活のしやすさにつながっていき、それらが、家庭内外での日本語の使用・継承を肯定的に捉える要因になっていると考えられた。しかし、在韓日本人母の面接調査からは、韓国での教育体制への不満から日本への進学を考える者が多く、それらが、日本語の継承・学習を促進させていた。これらの結果は、子どもの成長と韓国社会の変化とともに、さらに変化していく可能性がある。今後も縦断的に調査していくことを今後の課題とする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 花井理香	4. 巻 16
2. 論文標題 社会・家族変化が国際結婚家庭の言語・教育に与える影響 - 在韓日本人母の言語継承・変遷から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科紀要「言語コミュニケーション文化」	6. 最初と最後の頁 29-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井理香	4. 巻 第18号
2. 論文標題 在韓日本人母の継時的言語使用調査 子どもへ母語を使用していなかった母親を中心にー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同志社女子大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井理香	4. 巻 第50号
2. 論文標題 東アジアの国際交流と異文化間教育 - 相互理解の深化をめざして -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 花井理香
2. 発表標題 国際結婚家庭の言語継承要因調査 - 混合研究法を用いて -
3. 学会等名 第一言語としてのバイリンガリズム研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花井理香
2. 発表標題 在韓日本人母の縦断的言語使用調査 子どもへ母語を使用しない母を中心に
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花井理香
2. 発表標題 コミュニティと言語使用 在韓日本人母コミュニティの継時的調査から
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花井理香
2. 発表標題 韓国の政策が国際結婚家庭の言語・教育に与える影響 - 日本人母の言語継承・変遷から -
3. 学会等名 日本言語政策学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 花井理香
2. 発表標題 韓国の移民放送 - 外国人支援という視点から -
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----